

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第221回定期演奏会



三木稔のDNA

2017年 5月24日(水)

豊洲シビックセンターホール

午後7時開演(6時30分開場)

日本音楽集団
www.promusica.or.jp



■主催／特定非営利活動法人 日本音楽集団
■助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
■後援／(公財)日本伝統文化振興財団



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)



公益財団法人 日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

三木稔のDNA

1. 二つの牧歌 ～横笛と打楽器のための
2. トポロジカルスペース
3. Three Trees 三木
4. ときが巡りくれば
5. 凸 一三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲

二つの牧歌 ～横笛と打楽器のための

1966年 三木稔 作曲

〔横笛〕 西川浩平

〔打楽器Ⅰ〕 島村聖香 〔打楽器Ⅱ〕 多田恵子

本作品は、1966年6月に日佛会館ホールにて初演されました。同じ、横笛と打楽器という編成で書かれた長澤勝俊作曲「颯踏」の9年前に作曲されていますが、殆ど再演の機会を得ませんでした。三木稔は生前、本日の笛奏者、西川浩平に「機会があったら演奏してほしい」と楽譜を託していましたが、音楽集団の定期公演で演奏される機会が、師の亡き後となってしまいました。

曲は変化に富み、また明るい基調で書かれた作品で、1章／三本調子の篠笛独奏。2章／能管と十本調子篠笛、打楽器Ⅰ＝小鼓、大鼓、打楽器Ⅱ＝木筚、締太鼓、連板の編成。なおスコア上には、指揮者パートとして最後の部分にササラ演奏の指示がありますが、本公演では打楽器Ⅱが、そのパートを兼ねて演奏しています。（西川浩平）

日本音楽集団の草創期から長きにわたり常に歴史的な作品を残すとともに革新的なアイデアと行動力で、現代邦楽シーンを牽引してきた三木稔氏が世を去ってから5年が経過しました。しかしながら、三木稔の音楽とその精神は彼の作品のみに残っているのではなく、そのエッセンスは多くの人々、とりわけ数々の作曲家にもそのDNAの一端が残っていると感じざるを得ません。上演される機会の少なかった作品や、今回新たに発表される作品を含め、様々な角度から三木稔を見つめ直す機会となれば幸いです。

第221回定期演奏会実行委員

トポロジカルスペース

2001年 秋岸寛久 作曲

〔尺八〕 原郷隆

〔三味線〕 簗田弘大

〔二十絃〕 三宅礼子 〔十七絃〕 久本桂子

〔打楽器〕 多田恵子

今回の定期演奏会にあたって「三木先生に影響を受けた作品はありますか」と聞かれたのですが、邦楽器作品において、影響を受けていない曲などほとんどないわけでありまして、でもその「影響」がわかりやすく説明できる方がいいので、この曲を選んでみました。

徳島県のご出身の三木先生は、阿波踊りのリズムが体に染み込んでいるとおっしゃっていました。三連符でバウンスするリズムですね。ですので、なんとなく私はそのリズムを意識してしまい、使うことをためらっていました。自分の中から湧き上がってくるリズムではないような気がして。まあ、それほど深刻に気にしていたわけでもないんですけどね。で、あまりこだわることなく、その三連符に向き合ってみたのがこの作品です。もちろんリズムだけでなく、いろいろな点で師を意識しつつ自分なりの五重奏を追求したつもりです。お楽しみください。（作者）



秋岸 寛久

あきぎしひろひさ

助川敏弥、浦田健次郎、三木稔の各氏に師事。東京音楽大学卒。同大学研究科を修了後、日本音楽集団に入団。日本フィル九州公演、横浜国大グリークラブ、NHK邦楽技能者育成会、オーストラリア、シュライニング音楽祭、オーケストラ・アジアなどからの委嘱や、先代市川猿之助スーパー歌舞伎の音楽、NHK伝統和楽団の編曲等を手がける。



Donald Reid Womack

ドナルド・リード・ウォマック

哲学と音楽の学士号をFurman大学にて取得後Northwestern大学で作曲の修士課程を修め、博士号を取得。これまでに80以上の作曲、50以上の助成や賞を受ける。ハワイ大学音楽学部にて音楽理論、作曲の教授を勤める。



佐藤 容子

さとうようこ

東京音楽大学作曲専攻卒業。ハワイ大学音楽学部作曲科博士課程修了。邦楽、アジア民族音楽、室内楽、古楽、教会音楽の作曲を通じて、異なる文化に属する音楽の要素、技術、特性、美学などを一つの曲の中に共存させるIntercultural Musicの可能性を追求している。

Composer

Three Trees 三木

2013年 Donald Reid Womack 作曲

[指揮] Donald Reid Womack(助演)

[尺八ソロ] 元永拓 [琵琶ソロ] 久保田晶子 [二十絃ソロ] 三宅礼子

[尺八Ⅰ] 阪口夕山 [尺八Ⅱ] 田野村聡 [尺八Ⅲ] 原郷隆

[三味線] 山崎千鶴子

[二十絃Ⅰ] 熊沢栄利子 [二十絃Ⅱ] 桜井智永 [二十絃Ⅲ] 丸岡映美 [十七絃] 久本桂子

[打楽器Ⅰ] 山内利一 [打楽器Ⅱ] 盧慶順

「Three Trees 三木」は、二十世紀後半、そして二十一世紀初頭における日本屈指の作曲家、三木稔氏に敬意を表して作曲した。三木氏の名前からインスピレーションを受け、文字通り“3”と“木”を意識するこの曲は、箏、尺八、琵琶のための三重奏曲である。各楽章で異なる独奏楽器に焦点が当てられ、それぞれの独奏楽器に用いられている木材の特性を反映し具体的に表現している。(尺八の場合は竹なので、木のような草)。

第一楽章「Tree of Life 生命の木」は、箏に使われている桐を意味する。桐は伐採された後でも、残る根から再生する能力が知られている。これは、邦楽器をはじめとするアジアの楽器の国際化の為に尽力された三木氏のライフワークが、逝去された後も広く知られ続け、豊かな実を結び、これらの楽器の為に曲を書く若い世代の作曲家を導く事を喻えている。この楽章は新しい生命が繰り返しよみがえるが如く、箏独奏による優しく流れるようなパターンからはじまる。尺八は長いフレーズによる叙情的な旋律から始まり、曲全体にわたって繰り返される動機を演奏する。徐々にクライマックスへ向かった後、箏のカデンツァがゆっくりと静かに始まり、速くエネルギーな終結部から直ちに次の楽章へと繋がる。

第二楽章「Shimmering Bamboo Seaきらめき揺れる竹の樹海」は、きらめく日の光と影が、優しい風によって、儚くも魅力的で穏やかな効果を醸し出す美しい竹林を示唆している。楽章全体を通して、音楽は拍子のある部分と無拍子の部分を行き来する。独奏尺八は、アンサンブル群と交互に演奏し、多くの短いカデンツァを奏する。始まりはシンプルで、ゆったりとした間が感じられるが、次第に活発さを増し、やがて持続的な旋律線が作り上げられ、主要動機が再現される。

第三楽章「Hardwood堅木」は、琵琶に使われている様々な硬い木を意味し、最初の二つの楽章とは対照的に、ハードエッジな特色を持つ。独奏琵琶により、まるで霧が立ち現れるように第二楽章の終わりから静かに始まる。次第に動きが増し、アンサンブル群や他の独奏楽器が加わり、クライマックスへと繋がって主要動機が再現される。中間部では打楽器も加わって、他の二つの独奏楽器とは相容れない、一風変わった弱拍を強調した流れを作り上げる。独奏三楽器による最後の短いカデンツァは激しい終結部へと繋がわり、ついには、霧の中へ消えるが如く曲は終わる。(作曲家記／翻訳:佐藤容子)

ときが巡りくれば

2017年 佐藤容子 作曲(委嘱初演)

[指揮] 吉米地英一

[笛] 遠藤悠紀 [箏] 三浦元則 [尺八] 田野村聡

[三味線] 杵家七三 [琵琶] 久保田晶子

[二十絃] 熊沢栄利子 [十七絃] 久本桂子

[打楽器] 盧慶順

この作品は、ひとつのシンプルな旋律を中心に展開していきます。作品中、3回にわたって聴かれるこの旋律は、その度ごとに変化が加わり、蒔かれた種がいつしか根を張り、成長し、実を熟すといった実り(稔り)の時を予感させます。まず、冒頭で「風が歌うように」篠笛によって提示された後、曲の中盤では「記憶をたぐり寄せるように」箏によって演奏され、終結部では、「光が射してくるように」篠笛から尺八と箏に受け継がれていきます。その後fffに達したのち、尺八が「解放たれて」この旋律を独奏し、曲は終わりを迎えます。

この巡りくる旋律に挟まれた部分では、三味線や琵琶の打楽器的な特徴を生かした快活な部分や、恩師・三木稔氏の教えを思い出しながら作った「風が舞うように」箏の旋律が響く部分、打楽器のリードによって大きく雰囲気に変化する部分など、様々な要素が散りばめられています。

最後に、三木氏の教えを受けた作曲家の一人として、今回のコンサートのために委嘱して下さった日本音楽集団の皆様に、心より感謝申し上げます。(作曲家)

凸 一三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲

1970年 三木稔 作曲

[指揮] 吉米地英一

[笛] あかる潤 [尺八高音] 米澤浩 [尺八低音] 阪口夕山

[太棹三味線] 山崎千鶴子 [細棹三味線] 守啓伊子

[琵琶] 藤高理恵子

[二十絃] 桜井智永 [箏] 石井香奈 [十七絃] 丸岡映美

[日本太鼓] 山内利一

三群の三曲合奏を舞台の左(尺八高音・十三絃箏・太棹三絃)、中(能管及び篠笛・二十絃箏・琵琶)、右(尺八低音・太棹三絃・十七絃箏)に配置しそれらを統括する形で打楽器がいる。

個性の強い日本の楽器の特徴を生かして、伝統的でありながら極めて現代的、瞑想的かと思えば血の湧き立つリズムが延々と続く。発想・構成ともに絶対的な名曲である。

曲の構成は2つの部分から成っており、「第一部は私たちの芸術音楽の理念から私なりの継承を行いつつ、それらへの苛立ちの表明をしたつもりです。奏者たちは本質的に自由であって欲しいのです。第二部では第一部で沸騰して抑制できなかったものが自然にこぼれるように動き出してリズムが形成できたらと考えました。」(三木稔・レコード解説より)

特定非営利活動法人 日本音楽集団 正会員(団員)

【笛】

あかる潤 遠藤悠紀 新保有生
竹井誠 西川浩平

【笙】

三浦はな※

【箏】

西原祐二 三浦元則

【尺八】

大賀悠司※ 阪口夕山 田野村聡
原郷隆 藤崎重康 三橋貴風
宮田耕八朗 元永拓 米澤浩
渡辺淳

【三味線】

杵家七三 穂積大志※ 簗田弘大
簗田司郎 守啓伊子 山崎千鶴子
長井麻江 二代目三山貢正

【琵琶】

久保田晶子 首藤久美子 田原順子
藤高理恵子

【箏】

石井香奈 伊藤麻衣子 岡山亮子
久東寿子 熊沢栄利子 桜井智永
佐藤里美 島崎春美※ 城ヶ崎美保
彦坂恵美※ 久本桂子 丸岡映美
三宅礼子 山田明美 渡辺正子

【打楽器】

臼杵美智代 尾崎太一
島村聖香 仙堂新太郎
多田恵子 山内利一
盧慶順

【指揮】

稲田康 田中元樹
田村拓男 苔米地英一

【作曲】

秋岸寛久 川崎絵都夫※
篠田大介 高橋久美子
福嶋頼秀

【楽器・舞台】

中島隆

【アートマネジメント】

大西愛子※

【事務局】

中山美穂子

【永久名誉団員】

長澤勝俊

楽器別・五十音順
2017年5月現在
(※印は休団中)

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人
日本音楽集団が発足したのを契機に
賛助会員を募集しています。

多くの方々からの支援を仰ぎ、息の
長い活動の定着と発展を目指したく、
ご協力をお願い申し上げます。

賛助会員 | 賛助口数・五十音順(2017年度)

【法人会員】

青和観光株式会社／株式会社青和トラフィック／株式会社青和運輸 代表取締役 青木茂
日凸運送株式会社 有限会社 邦楽ジャーナル 代表取締役 田中隆文
神戸レコードクラブ／宅音便(有限会社 文)

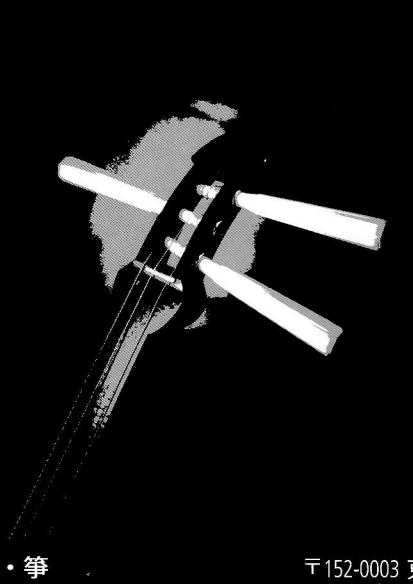
【個人会員】

山本福八
池田玖莉子 柿崎やよい 金子宣弘 小池節子 佐藤裕美 佐藤玲子
添川慎二 東谷 仁 友杉 毅 堀 保之 三宅一徳 元永明希
元永美代子 森 繁美 森 博明 山本友英 (他1名、計18名)

年間

個人会員 10,000円(一口以上)

法人会員 30,000円(一口以上)



三味線・箏

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792)8437
URL : <http://kinko-do.com/>
E-mail : tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人
日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1F
TEL 03-3378-4741 FAX 03-3376-2033
<http://www.promusica.or.jp> E-Mail office@promusica.or.jp